

4. 実習評価基準

4.1. 目的

施設実習において学生を評価するための基準を策定し、評価・指導すべき能力の項目（評価項目）とその達成目標レベルを明確化する。この評価基準により、実習指導・評価の客観性を高めると共に、効果的で適切な実習指導・評価を促進することを目的とする。

4.2. 基本構成

実習評価基準は「介護福祉士 実習Ⅰ」と「介護福祉士 実習Ⅱ」のふたつで構成されている。「実習Ⅰ」は最初の施設実習の際に用いる評価基準で、「実習Ⅱ」は2回目以降の施設実習で使用する評価基準である。

「実習Ⅰ」は5つの評価項目「実習態度」「介護過程の展開」「実習記録」「生活支援技術」「その他」からなる。各評価項目は中項目・小項目に細分化され、小項目のレベルで実習評価を行う。

「実習Ⅱ」は4つの評価項目「実習態度」「介護過程の展開」「実習記録」「生活支援技術」で構成されている。「実習Ⅰ」と同じく、これらの各評価項目は中項目・小項目に細分化されているが、小項目の数は「実習Ⅰ」よりも多く設定されている。

評価レベルは以下に示すA～Dまでの4段階としている。「自ら実行できる」のAが最も高い評価レベルで、「できない」のDが最も低い評価レベルである。各評価レベルの配点については固定せず、各評価者が自由に設定する。

A () 点	自ら実行できる
B () 点	指示を受け理解し実行できる
C () 点	指示をうけながら実行できる
D () 点	できない

評価結果は全体の合計点だけでなく、「実習態度」や「介護過程の展開」など評価項目ごとの合計点も算出できるようになっている。これにより評価項目単位での評価結果が明確になる。また、各評価項目に「重み付け」を行い、評価項目の重要度を加味した評価結果の算出もできるフォーマットとしている。例えば、「実習態度」を重視したい場合には、「実習態度」の「重み」として、他の評価項目よりも高い数値を設定することでその重要度の高さが示される。

次のページに「実習Ⅰ」「実習Ⅱ」の評価基準を示す。

介護福祉士 実習Ⅰ 評価項目

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度			
2. 介護過程の展開			
3. 実習記録			
4. 生活支援技術			
5. その他			
合計			

評価レベルと配点	
A (点)	自ら実行できる
B (点)	指示を受け理解し実行できる
C (点)	指示を受けながら実行できる
D (点)	できない

評価項目		A	B	C	D
1. 実習態度					
1.1 多様な生活の場の理解	1)入所者の一日及び一週間の生活を理解できる				
	2)施設の制度上の種別を理解できる				
1.2 基本的態度	1)利用者やスタッフに対する礼儀は適切である				
	2)服装、身だしなみは適切である				
	3)周囲の状況に応じて気配りができる				
	4)指導者に対する態度は適切である				
	5)時間を守ることができる				
	6)利用者と適切なコミュニケーションがとれる				
	7)積極的に質問ができる				
2. 介護過程の展開					
2.1 利用者に対する情報収集	1)利用者や家族の生活に対する意向を理解できる				
	2)利用者の心身機能・身体状況、健康状態を理解できる				
	3)利用者を取り巻く物的環境(衣食住・福祉用具等)、人的環境(家族、友人、職員等)を理解できる				
	4)利用者の人生や生活の特別な背景(ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等)について理解できる				
3. 実習記録					
3.1 報告・記録	1)求められた内容を適切に記述できる				
	2)自己の考えが表現できる				
	3)記録等の提出期限を守ることができる				
	4)口頭報告の時期・態度が適切である				

4. 生活支援技術					
4.1 入浴介助	1)入浴前の確認ができる				
	2)状態に合わせた衣服の着脱介助ができる				
	3)身体を洗う介助ができる				
	4)浴槽に入る介助ができる				
	5)清拭介助ができる				
4.2 食事介助	1)食事前の準備を行うことができる				
	2)座位で食事をする際の姿勢の介助ができる				
	3)寝たままで食事をする際の姿勢の介助ができる				
	4)食事介助ができる				
	5)口腔ケアの介助ができる				
4.3 排泄介助	1)排泄の準備を行うことができる				
	2)状態に合わせた排泄介助ができる				
	3)おむつ交換介助ができる				
4.4 移動・移乗介助	1)起居の介助ができる				
	2)状態に合わせた移動・移乗介助ができる				
	3)車いすの移動介助ができる				
	4)杖歩行の介助ができる				
5. その他					
5.1 地域包括ケアの評価	1)地域包括ケアの仕組み・意義や役割を理解できる				

●所見

介護福祉士 実習Ⅱ 評価項目

評価結果	点	点×重み	重み
1. 実習態度			
2. 介護過程の展開			
3. 実習記録			
4. 生活支援技術			
5. その他			
合計			

評価レベルと配点	
A (点)	自ら実行できる
B (点)	指示を受け理解し実行できる
C (点)	指示を受けながら実行できる
D (点)	できない

評価項目		A	B	C	D
1. 実習態度					
1.1 コミュニケーション	1)傾聴共感と基本的なコミュニケーションができる				
	2)利用者・家族とのコミュニケーションができる				
	3)職員とのコミュニケーションができる				
1.2 基本的態度	1)利用者やスタッフに対する礼儀は適切である				
	2)服装、身だしなみは適切である				
	3)周囲の状況に応じて気配りができる				
	4)指導者に対する態度は適切である				
	5)時間を守ることができる				
	6)利用者と適切なコミュニケーションがとれる				
	7)積極的に質問ができる				
2. 介護過程の展開					
2.1 情報収集	1)利用者や家族の生活に対する意向を理解できる				
	2)利用者の心身機能・身体状況、健康状態を理解できる				
	3)利用者の残存機能を理解できる				
	4)利用者を取り巻く物的環境(衣食住・福祉用具等)、人的環境(家族、友人、職員等)を理解できる				
	5)利用者の人生や生活の特別な背景(ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等)について理解できる				
2.2 すべてのプロセスの実施(1)個別介護計画の	1)得られた情報を整理、統合することができる				
	2)課題を明確にすることができる				
	3)個別介護計画において、目標を設定できる				

立案	4)個別介護計画において、目標を達成するための具体的支援内容(担当者、頻度、期間を含む)を設定できる				
2.3 すべてのプロセスの実施(2) 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリング	1)機会があればケアカンファレンス等の場に参加し、個別支援計画やケアカンファレンスの意義や位置づけについて理解することができる				
	2)チームにおける個別介護計画の実施状況を理解できる				
2.4 すべてのプロセスの実施(3) 個別介護計画の評価	1) 評価の仕方や方法を理解できる				
	2)個別介護計画の目標に対する到達度を評価できる				
	3)評価の結果についての見直しや代替案を理解できる				
3. 実習記録					
3.1 報告・記録	1)求められた内容が記述できる				
	2)自己の考えが表現できる				
	3) 記録等の提出期限を守ることができる				
	4) 口頭報告の時期・態度が適切である				
4. 生活支援技術					
4.1 入浴介助	1)入浴前の確認ができる				
	2)状態に合わせた衣服の着脱介助ができる				
	3)身体を洗う介助ができる				
	4)浴槽に入る介助ができる				
	5)清拭介助ができる				
4.2 食事介助	1)食事前の準備を行うことができる				
	2)座位で食事をする際の姿勢の介助ができる				
	3)寝たままで食事をする際の姿勢の介助ができる				
	4)食事介助ができる				
	5)口腔ケアの介助ができる				
4.3 排泄介助	1)排泄の準備を行うことができる				
	2)状態に合わせた排泄介助ができる				
	3)おむつ交換介助ができる				
4.4 移動・移乗介助	1)起居の介助ができる				
	2)状態に合わせた移動・移乗介助ができる				
	3)車いすの移動介助ができる				
	4)杖歩行の介助ができる				
4.5 状態の変化に応じた対応	1)状態の変化に気づいたときには報告できる				

5. その他

--	--	--	--	--	--

●所見

--